生きるの h け h 大好き冬のはじめが春に似 で負けて蛍に生ま れた の て

の

庭

ピーマン切って中 を明 るくしてあげた

醤

油

しみて

鰈

はさび

しかろ

像 の つく夜 桜を見に来たわ

V画 面 のバンザイ岬 月 十五日真幸く贅肉あり いつも夏

青 嵐 神 社 があったので拝 む

前 ヘススメ前 ヘススミテ還 ラザル

目 覚 めるとい つも私 が居 て遺 憾

類 の 旬 の 土偶 のおっぱ いよ

茄 子 焼いて 冷 ゃ してたま L 1, の

人 が 人を愛 L たりして青 菜 に虫

揺 場 N 揺ら に 近 れ水 眼 鏡は 母 ょ (, くつ飛 んだ 君は水ではない

いっせいに毛 虫 孵 りて毛虫に会 う

タ しぐ れ我ら去ぬれば樹 を呼ぶ 初

明

IJ

地

球に人も寝て起きて

ょ し分った君 はつくつく法 師 である

の 世も小 春 日和か郵便局 あるか

寒 の 灯 を消 す思ってます思ってます 7 思 っ てます』

アマリリスあ したあたしは雨 でも行

処 あったかいよとコンビニエンススト ア の 灯

でいて月 下 や居 なくな れぬ蛇

タ 凪 や 寄 港 のたびに船 古び

が 句 IJ 秋 の 素足に似て 恥 ずか

の 子 の 抱 き方 プルトニュームの 捨 て方

生きてる

春キャベツ嵩張る

散 る 萩 に かまけてふっと髪 白し

き

るときに春 ならこの口 紅

処

か 人 に生 まれ て

た ま 11 の 話